

学界消息

三田史学会 昭和四十二年度大会

十月二十一日(土) 於 慶応義塾大学
イスラーム地理書の性格とその利用

鎌倉時代の足利氏 家島 彦一
時代転換についての一考察 小谷 俊彦
トルコの旅から 近山 金次
三橋富治男

広島史学研究会 昭和四十二年大会

十月二十八日・二十九日 於 広島大学
〈シンポジウム〉東洋における支配者像と支配
の論理

律令制天皇の基本性格 橋本 政良
中国古代に於ける支配者像と支配の論理
宋代の官僚像と支配者像 板野 長八
王陽明と支配の論理 寺地 遼
近世後期の朱子学と水戸学との関係——支配
の論理をめぐって—— 藤沢 弘昌
頼 祺一

〈公開講演〉

ロシア革命五十年 中村 義知
明治維新の思想 大江志乃夫

〈日本史部会〉

識緯説の文化史的意味を追う——鄭玄識緯説
の文化的動きを図式化して—— 水野 惟之
令義解の成立過程 押部 佳周

因幡国服部荘について

山中 寿夫
小坂 博之
寛正の土一揆を通してみた備中国新見荘の荘
民と領主 小山 浩正

石盛についての一、二の疑点 竹本 弘文
越後における藩制成立期の問題 小村 弼
近世交通における特権通行の人馬道高につい
て 藤沢 晋

変革期の蘭医——江馬元益の場合——

末中 哲夫
太田 健一
維新内乱期の農民闘争 甲斐 英男
自由民権期の地方自治の要求——一地方議
会を通して見た——

〈東洋史部会〉

舜の一族についての疑問 大西 正男
東晋における南北人対立についての一考察 矢野 主税
日唐交渉史上の一問題 杉本直治郎
冊府元龜と宋会要——その記述形式と思想
性—— 山内 正博

毛沢東における反帝反封建闘争の変遷過程 藤原 康晴
ペナンにおける建築関係の手工業ギル
ド・ジャーニーマンギルドと、その近代化に
ついて 今堀 誠二

〈西洋史部会〉

アンブロシウスの *l'ignis* について 三木 利英
ランカスター朝における庶民院議長の立場 尾野比左夫

〈日本史部会〉

因幡国服部荘について 山中 寿夫
小坂 博之
寛正の土一揆を通してみた備中国新見荘の荘
民と領主 小山 浩正
石盛についての一、二の疑点 竹本 弘文
越後における藩制成立期の問題 小村 弼
近世交通における特権通行の人馬道高につい
て 藤沢 晋
変革期の蘭医——江馬元益の場合——
末中 哲夫
太田 健一
維新内乱期の農民闘争 甲斐 英男
自由民権期の地方自治の要求——一地方議
会を通して見た——
大西 正男
矢野 主税
杉本直治郎
山内 正博
藤原 康晴
今堀 誠二
三木 利英
尾野比左夫

羅され、凝集されている。従って、バラ色の発展史観でもなく、特定個人や事業所の褒貶も含まず、いわんや県政のPR臭もなく、叙述は客観的叙述をもって一貫している。委員・執筆者各位の最も苦心されたところであったかと推測される。しかしそのことが、本書の弱点であるようにも思われる。この百年の日本の歩みには、大きな幾つかの節があった筈であり、とりわけ昭和二十年八月の断絶をもっている。苦心して収集されたであろう豊富な写真をも含めてそれらは描かれているとはいえず、客観的叙述の故に、何だか空しく感ぜざるを得ない。本書を通して、歴史とは何か、をあらためて考えさせられるのである。そういう意味では、本書は、みごとに年代期であるといえるか、むしろそれは現自治体の矛盾の表白といわねばなるまい。

本書のために、膨大な資料が収集されたかと思われる。それらが然るべく整理・保存され、研究者の利用に供されんことを希望する。

(A5判 本文二、二一六頁、年表一九頁
昭和四十二年七月 兵庫県刊) (熱田 公)

Erasmian humanism とベンリー八世

バトニー討論における政治思想 佐坂 美幸
 プロイセン「普通国法典」の性格と成立について 友田 卓爾
 コブデンの自由貿易論と英帝国——一八五〇 和仁 守

トクヴィルのアメリカに見られる労働運動の意義について 内田 信正

パリ・コミューンの成立と国民軍 仲田 光

ローザ・ルクセンブルクの民族理論 初村 義彦

自由主義と急進主義について 田中 康義

ナチスの農業政策と世襲農場法 若松 繁信

近代西欧歴史思想の比較研究について 豊永 泰子

〈地理部会〉 吉武 夏男

フランスの地誌研究における地域設定法について 蒲原多美子

北陸地方における扇状地の耕地整理 白井 義彦

広島市郊外の企業分譲住宅団地 佐伯 岩男

美濃国東大寺領大井荘の坪付と田積 水野 時二

昭和四十二年七月豪雨における呉市 東 皓伝

中国地方諸都市の機能に関する一考察 中村 貞臣

三次盆地及びその周辺の地形 加藤 哲也

北上山地中部の二、三の Brockström について

アフリカの農業景観 松本 繁樹
 オーストラリアのアボリジニーズ 丹生谷 章
 加藤 正隆・中尾 保一
 藤枝 孝善・松本 昭一

〈考古・民俗部会〉 一九六七年度帝釈遺跡群の調査研究

山口県中の浜遺跡——弥生時代前期埋葬遺跡の研究—— 松崎 寿和・杉原 莊介・潮見 浩

山口県中の浜遺跡——弥生時代前期埋葬遺跡の研究—— 川越 哲志・福井 万千

太田川下流域の古墳分布 藤田 等・川越哲志

三次市四拾貫古墳群の発掘調査 福谷 昭二

文化財保護思想をいかにして青少年にはくむか——子ども会を中心にして—— 河瀬 正利

〈社会科教育部会〉 歴史研究の効果についての調査研究 福井 万千

歴史教科書における現代史の推移について 大久保 光

——特に大正期における中等学校用「日本史」を中心に—— 上野 実義

共同討議「小学校社会科の改訂をめぐる」 京都大学内陸アジア研究所 講演会

昭和四十二年一月二日（木）於 同研究所

カスピ海地方米作農村の経済構造 岡崎 正孝

西夏部姓「鬼恩」をめぐる 西田 龍雄
 初期イスラム社会の特徴 嶋田 襄平

史学会 第六十六回大会 十一月十一日（土）・十二日（日）於 東京大学

〈公開講演〉 わが国における装飾古墳とその文化

中世西アジア人のインド洋通商 斎藤 忠

〈日本史部会〉 法華義疏と勝鬘經義疏との関係について 前嶋 信次

奈良時代の皇親と貴族 望月 一憲

保の成立 庄司 浩

「文治守護地頭」試論 竹内 理三

永仁徳政令と越訴 石井 進

佐賀藩の人口動態 笠松 宏至

明治三十八年講和反対世論の研究 城島 正祥

——明治三十年代の新聞発達からみた日比谷焼打事件—— 有山 輝雄

米穀検査と小作米——肥後米の場合—— 加藤 英子

〈東洋史部会〉 先秦貨幣の普及率 関野 雄

周公即位考 松本 雅明

四世紀における嘉陵江上流地域の地域構造に 関する考察 前田 正名

現存唐代燉煌戸籍の年代的特徴——開元四年、十年籍案を中心として—— 池田 温

遼の著帳官について

加藤 修弘

北宋時代の東南官売下末塩鈔について

幸 徹

マムルーク期におけるナースィル検地の歴史的性格

佐藤 次高

張居正文量策の歴史的意義

重田 徳守

清代徽州商人の一面

笠原 立晃

セボイの反乱

山本 達郎

黎朝の教化条例

アテネにおける殺人訴訟——公衆訴追主義との関連——

小田 洋

一〇——二世紀における Herzogtum の発展

山田 欣吾

イタリア中世都市の領域支配政策の一段階

清水広一郎

——Civis selaticus について——

チュリッヒにおける再洗礼派運動について

——ツヴィングリ主義による宗教改革の側面——

森田 安一

ブルゴーニュ慣習法にみえるフランス絶対王制成立期の領主裁判権

志垣 嘉夫

ルイ十四世治下の思想統制——「禁書カタログ」の分析——

二宮 素子

チャールティストの「土地計画」とその史的位

古賀 秀男

置について

マルクス・エンゲルスとポーランド問題

伊東 孝之

東方学会 創立二十周年記念一七回会員総会

十一月十日（金）於 日本大学文理学部

祝尊の歴史性についての問題点

中村 元

毀代の古銅器と彫像（スライド使用）

梅原 末治

文化史学会 一九六七年度大会

十一月十一日（土）・十二日（日）

於 同志社大学

〈個別研究発表〉

古代の肖像と個性

小川 光暢

万葉集家持作歌の位置

橋 重孝

王統系譜というもの——日朝古代史をめぐる——

木下 礼仁

近世後期の京都木材市場

藤田 叔民

徂徠学と永嘉永康学

今中 寛司

ウィルソン大統領の「革新主義」政策について

池本 幸三

〈大会テーマ〉「歴史に於ける人間像の諸問題」

柳田国男の農民像

赤田 光男

「昭和史論争」と歴史学

黒田敏一郎

FAUSTUS と AGAPUS——西洋古代末にみるある異教徒の人間像——

須永 梅尾

キケロとその時代

浅香 正

明治時代における歴史学と歴史教育

岩井 忠熊

ローマの美術（スライド使用）

中村 茂夫

十一月一八日（土）・一九日（日）

於 立命館大学

〈個別研究報告〉

調庸制成立の史的意義について

菊地 康明

享保一揆とその社会的経済的基盤——広島藩を中心として——

畑中 誠治

幕末における農民闘争と農民制

青木美智男

戦後労働運動の問題点

戸木田嘉久

〈共同研究報告〉「人民闘争と国家の諸段階」

古代 律令制収奪と人民

狩野 久

中世 中世成立期の国家と農民

戸田 芳実

近世 明治維新における絶対主義の形成と人民闘争

池田 敬正

近代 危機における日本帝国主義の思想

尾川 昌法

立教大学史学会 一九六七年度大会

十一月二十五日（土）於 立教大学

幕末におけるキリスト教再伝来について

遠矢 徹志

京都の切支丹牢について

西蓮寺育子

徳川初期における土地移動について——美濃

国旧席田郡春近村検地帳・名寄帳の分析を通じて——

小林 康宏

清代官僚の動向に関する二、三の問題

石橋 秀雄

暴君ネロの一考察

秀村 欣二

「伊能忠敬図」の精度と実用性について

保柳 睦美

〈公開講演〉

ルソーとロベスピエールをめぐるて

井上 幸治

関西大学史学会 昭和四二年度大会

十二月二日（土）於 関西大学

平城宮出土の古代通貨

町田 章

式部省と写経生

茨木 一成

備中松山藩士の土着について

朝森 要

韓国慶州の石像（スライド使用）

上井 輝代

考古学から見た池田地方の諸問題（スライド使用）

富田 好久

糸里の分布形態

服部 昌之

〈公開講演〉

西周時代に関する二三の問題

伊藤 道治

早稲田大学史学会 昭和四二年度大会

十二月三日（日）於 早稲田大学

岡倉天心論

野口 信治

チンギスカガン関係史料考

吉田 順一

ハクストハウゼンとロシヤ農村共同体

鈴木 健夫

タガール文化期の葬制

藤川 繁彦

〈公開講演〉

大正政変と軍部

由井 正臣

モスクワ大学の学生生活について——歴史学部を中心として——

山本 俊朗

駿台史学会 一九六七年度大会

十二月九日（土）於 明治大学

水戸藩における廃仏毀釈

圭室 文雄

元末の叛乱——朱元璋集団と張士誠集団について——

今井 春夫

ナロードニチエストボオからマルクシズムへ

西田 幸子

下総国分尼寺址の調査

甲斐 忠彦

関東山地東縁の河岸段丘

清水 文健

近世後期、松本地方における流通機構の変質過程——手馬輸送の展開を中心に——

大野木大乗

「満州事変」と朝鮮支配政策の転換——「農村振興運動」における朝鮮総督府権力機構の再編成を中心として——

宮田 節子

栃木県の開拓農業

安藤 正邦

銅鐸の現在の理解

杉原 莊介

〈特別講演〉

最近における台湾の現情（スライド使用）

渡辺 操

トルコみたまま（8ミリ映画使用）

三橋富治男